

～外国人労働者を雇用する職場及び監理団体の皆様へ～

結核の知識 職場でできる結核対策

現在、日本では、若い年代の外国生まれの結核患者が増加しています。
結核について正しく知り、職場でできる結核対策を行いましょう。

2024年結核の状況

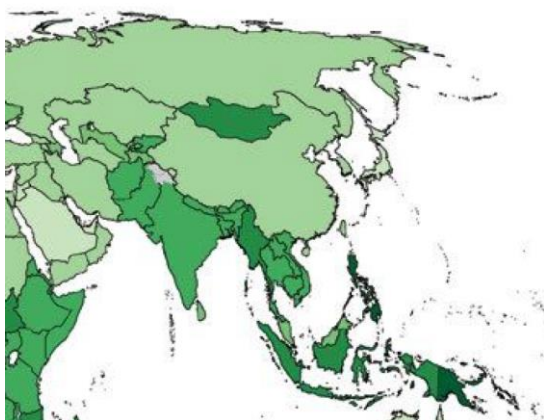
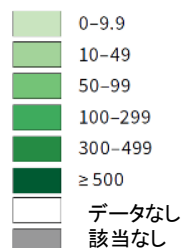
世界

結核を発病した人 推定**1,070万人**

死亡者数 推定**123万人**

アジアの結核流行状況

人口10万人あたりの
年間発生率



出典：WHO Global Tuberculosis Report 2025

- アジアでは、結核がまん延しています。
- 高まん延国から入国した結核患者からの感染拡大が懸念されます。

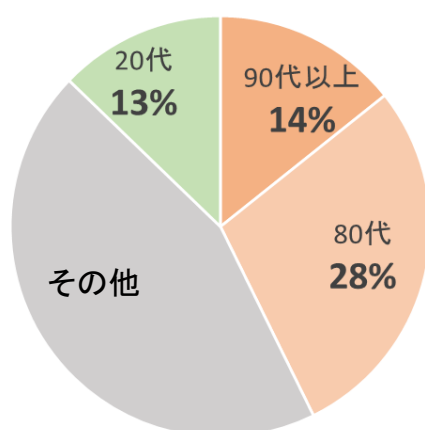
日本

罹患率（人口10万対） **8.1**

新登録患者数 **10,051人**

日本は結核低まん延国

年齢階級別の割合



- 80歳以上の高齢者が全体の約42.7%となっています。
- 20歳代の90.0%が外国生まれの結核患者です。

北筑後保健所管内

新登録患者数 **14人**

外国出生新登録患者数 **5人**

全体の36%が外国生まれ

近年、

外国人が生活する場（職場、寮、高齢者施設）などで、

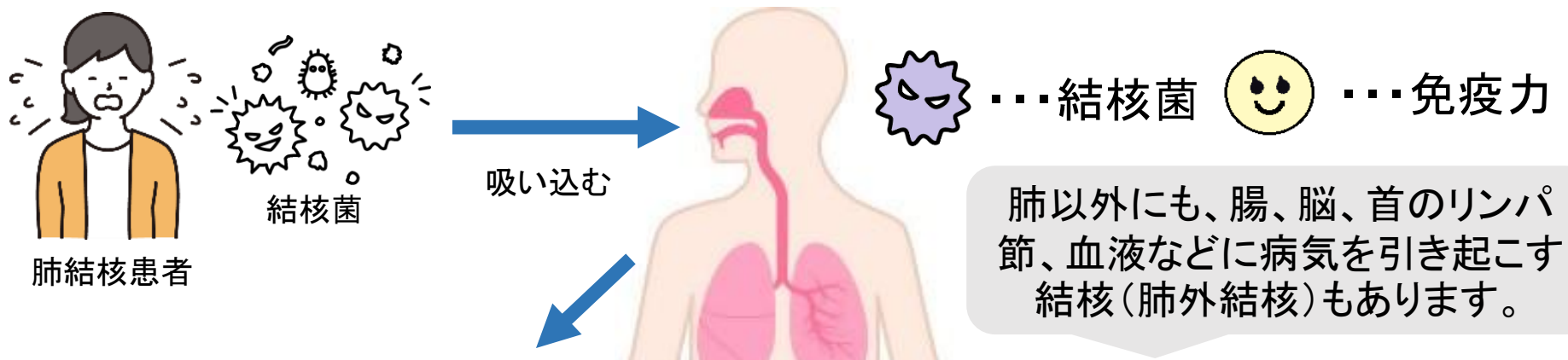
結核の集団感染

が発生しています。

結核ってどんな病気？

結核とは

結核は、結核菌という細菌によって、主に肺に炎症が起きる病気です。
菌をだしている肺結核患者の咳やくしゃみの「しぶき」にのって、菌が空気中に飛び散り、周囲の人が直接吸い込んで肺の奥深くに入り込むことで感染します。（空気感染）
感染しても発病していなければ、他の人に感染させる心配はありません。



	「感染」	「発病」	
肺の状態	免疫力が働き、結核菌を抑え込み、封じ込めます。結核菌は体内で休眠状態となっています。	発病しても重症化しない限り、他の人に感染させることもほぼありません。	重症化し、排菌している状態。他の人に感染させます。
病名	潜在性結核感染症（LTBI）	肺結核	
感染性	ない	低い （喀痰検査で陰性）	高い （喀痰検査で陽性）

外来治療しながら通常通りの仕事・生活ができる
※外来治療中でも、病状によっては、一定期間、特定の職種の就業が制限されることがあります。
（就業制限）

入院が必要
（入院勧告）

この段階で発見できれば、**感染拡大を防げます。** 治療を行い、喀痰検査で陰性になれば退院できます。

したがって、

感染拡大を防ぐためには、
早期発見・早期受診が重要です。

職場で結核を広げないためには？

早期発見

結核の発病は、胸部エックス線検査、喀痰検査などでわかります。

01 雇入れ時の健康診断の実施

雇入れ時は必ず健康診断を実施しましょう。発見が遅れると、感染拡大につながりますので、早めに行うことが大切です。

重要！

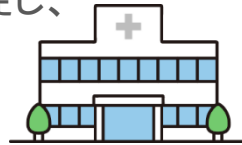
医療機関への受診の仕方が分からない人もいるかもしれません。目配り・気配りをお願いします。

02 胸部エックス線検査の実施

結核の発病は胸部エックス線検査でわかります。
雇入れ時の健診で異常がない場合でも、その後発病することもあります。
年1回、定期健康診断で胸部エックス線検査を省略せずに実施しましょう。

03 精密検査が必要な者のフォローアップ

健診もれ者を把握して、全員受診につなげましょう。
健診で異常があれば、すぐに医療機関受診を促し、健診結果の把握と記録をしましょう。



重要！

専門用語が多い医療用語を正確に理解することは難しいため、日本語が得意な外国人でも、受診の際は通訳者の同行をご検討ください。

早期受診

04 体調不良者の発見と受診・相談体制の整備

結核は風邪と似た症状で、結核だと気づきにくいです。また、外国人は、母国から持参した薬を内服することで症状が抑えられ、発見が遅れる可能性があります。以下のような時は早めに医療機関を受診するよう勧めましょう。

- 咳、痰、発熱、怠さなど風邪のような症状が2週間以上続く時
- 仕事を続けて休む、元気がない、食欲がない、体重減少がある時



重要！

日本人よりも、結核を発病する可能性が高いことを念頭に置いて、健康管理に気を付けることが大切です。

05 免疫力を高める

夜更かしや深夜労働など不規則な生活は免疫力を低下させます。外国人労働者は、慣れない環境でストレスを抱えていることが予測されます。「ちょっと疲れたな」と感じたら、無理せず早めに休むことをお伝えください。

バランスの
良い食事



良質な睡眠



喫煙者は禁煙



ストレスの
理解・サポート



もし職場で結核が発生したら！

感染者・発病者は？

結核は薬で治療、予防ができます。毎日の服薬が大切です。

発病している場合：通常4種類の薬を、6～9カ月内服します。

潜在性結核感染症(LTBI)の場合：発病予防で、1種類の薬を3～6カ月内服します。

排菌あり

入院治療(約2カ月)

外来治療

排菌なし

外来治療

治療費の補助(公費負担制度)があります。

入院勧告：原則自己負担はありません。

外来通院：治療費の一部が助成されます。自己負担額は5%です。

入院勧告の場合

自己負担 原則0円(入院時の食事療養費等は公費対象外)

上記以外の場合

自己負担 5%

※これらの公費負担制度は、外国人も対象です。

職場の対応は？

保健所が接触者調査を行います。

結核患者が確認されたら、保健所は、病気の状態や感染の広がりなどを把握するために、職場の同僚・顧客、同居者など、接触した人の状況を確認します。

必要に応じて保健所が接触者健診を行います。

接触者のうち、濃厚接触者や発病リスクの高い人を優先し、段階的に実施します。

！ 人権への配慮を忘れずに

医学の進歩で治療可能になった現代でも、結核患者に対する差別や偏見があります。文化や生活習慣の違いに配慮し、患者の人権が損なわれる事態が起きないようにしましょう。

アンケートのお願い

より効果的な情報提供のため、右のQRコードより、この結核啓発リーフレットに係るアンケートへの御協力をお願いいたします。



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

結核についての正しい理解と、保健所の取組へのご協力をお願いいたします。お困りのことがあれば、保健所へご相談ください。



〈お問合せ先〉
福岡県北筑後保健福祉環境事務所
保健衛生課 感染症係

住 所：朝倉市甘木2014-1
電 話：0946-22-9886
担当者：